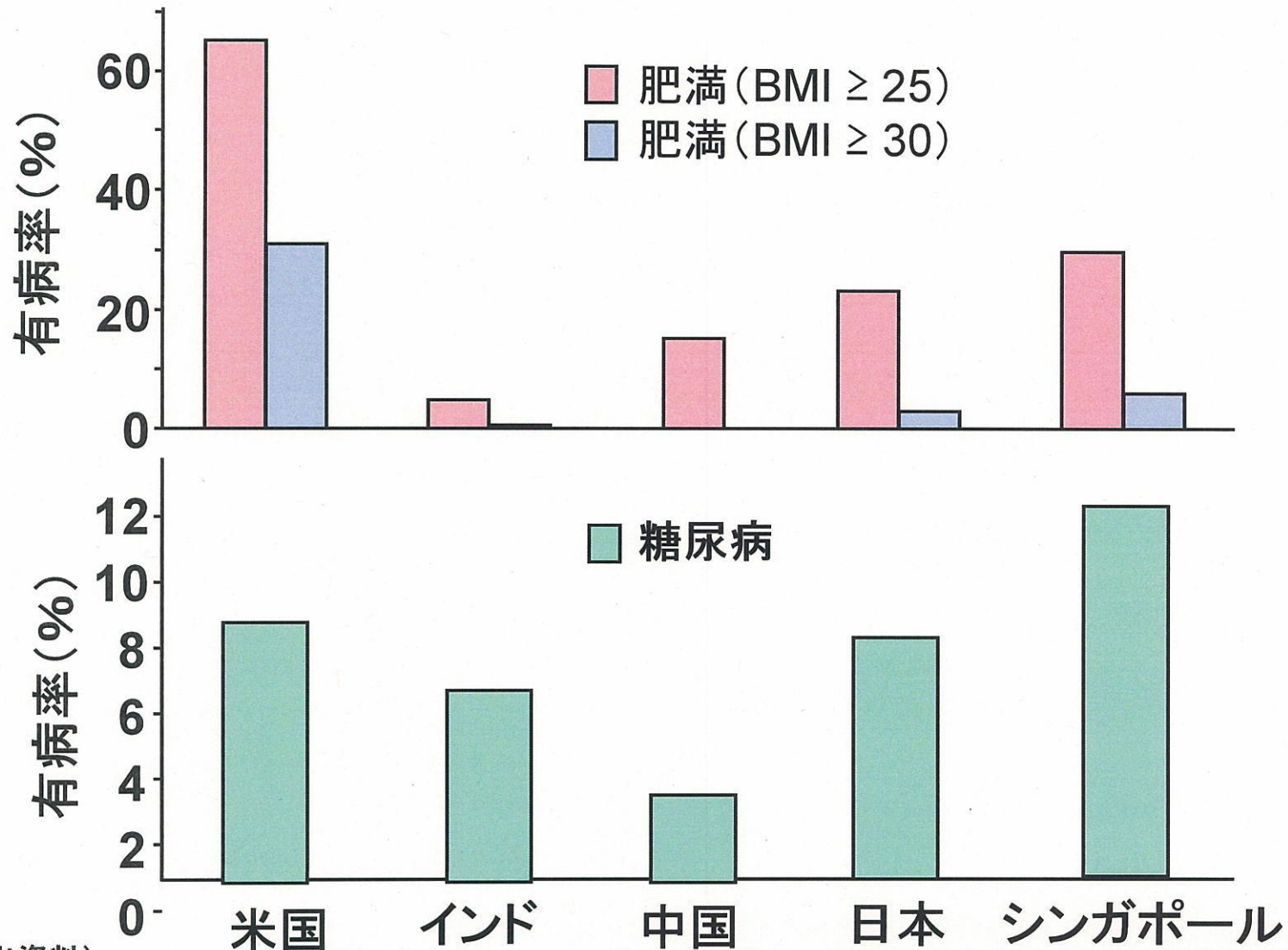


今後の糖尿病対策と 国立国際医療センターの役割

1. 日本と世界の糖尿病の現状
2. 今後の糖尿病対策が取るべき方向性
3. 国立国際医療センターが果たすべき役割

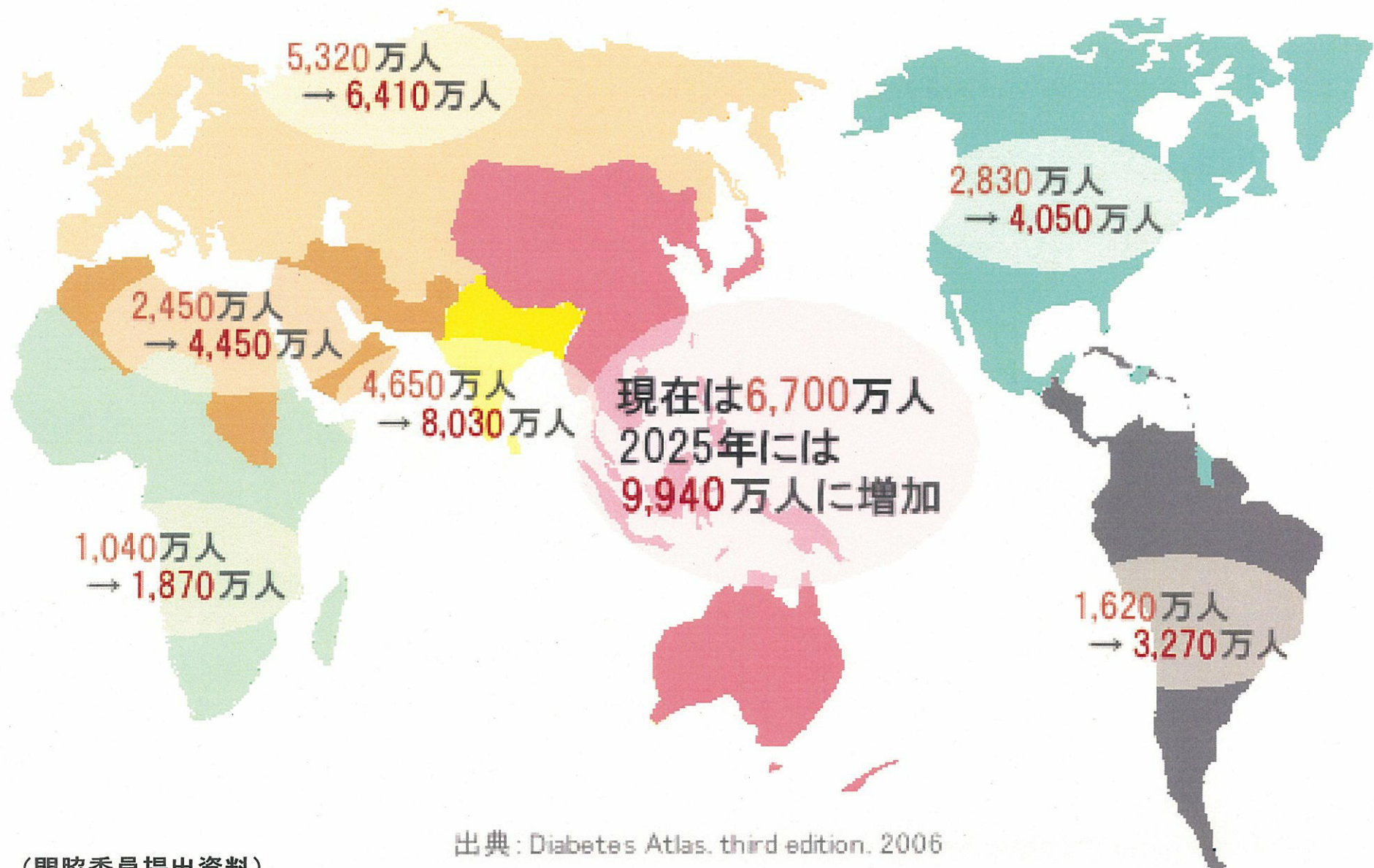
肥満と糖尿病の有病率—Asia's big problem

(Nature Medicine 2004年4月4日号)



(門脇委員提出資料)

糖尿病人口の推移(西暦2007年と2025年の比較)



(門脇委員提出資料)

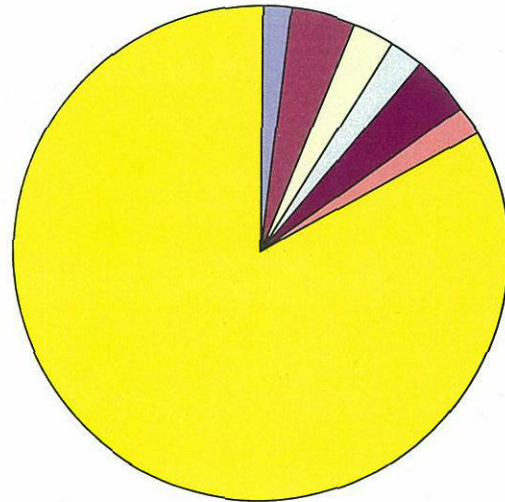
出典: Diabetes Atlas, third edition, 2006

技術(研究開発):基礎的研究

日本人・アジア人型の糖尿病遺伝素因の50%を解明

現在の状況

日本人2型糖尿病遺伝素因の約15%が解明されている



- PPAR γ
- アディポネクチン
- HNF4 α
- アミリン
- レジスチン
- TCF7L2
- ?

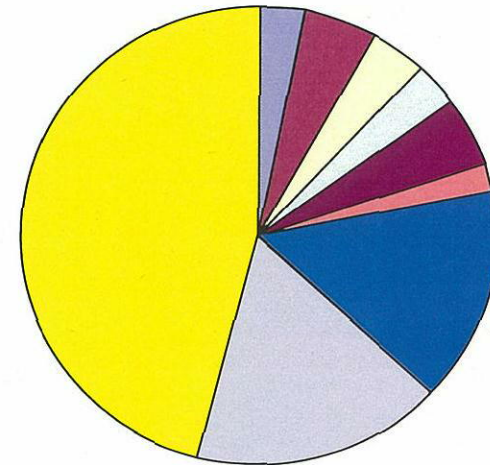
5年間



候補遺伝子アプローチ
+
全ゲノムスキャン

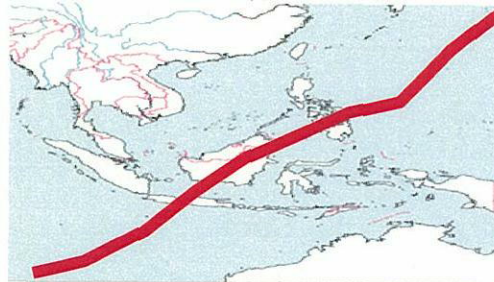
対策後の成果

日本人2型糖尿病遺伝素因の約50%以上を解明する



- PPAR γ
- アディポネクチン
- HNF4 α
- アミリン
- レジスチン
- TCF7L2
- 遺伝子A
- 遺伝子B
- ?

アジア・オセアニア



全世界の糖尿病患者の約50%を占める

わが国の糖尿病・メタボリックシンドローム対策 においてNational Centerが担うべき役割

①最適な治療法・予防法の確立への貢献

新たな生体指標を明確化と病因の解明 テーラーメイド治療・予防の確立
診断・治療技術の開発 新薬の開発
効果的な栄養指導法・運動指導法の開発への提言とその実施
検診予防技術の研究・開発とデータの蓄積
疫学研究の実施・提言

②臨床試験ネットワークの中心として役割

臨床試験の推進 新たなエビデンスの創出
国への政策の提言

③情報発信センターとして役割

予防・治療に関する正しい情報の発信
啓発、動機付け、知識の普及
地域における糖尿病・メタボリックシンドローム対策への提言

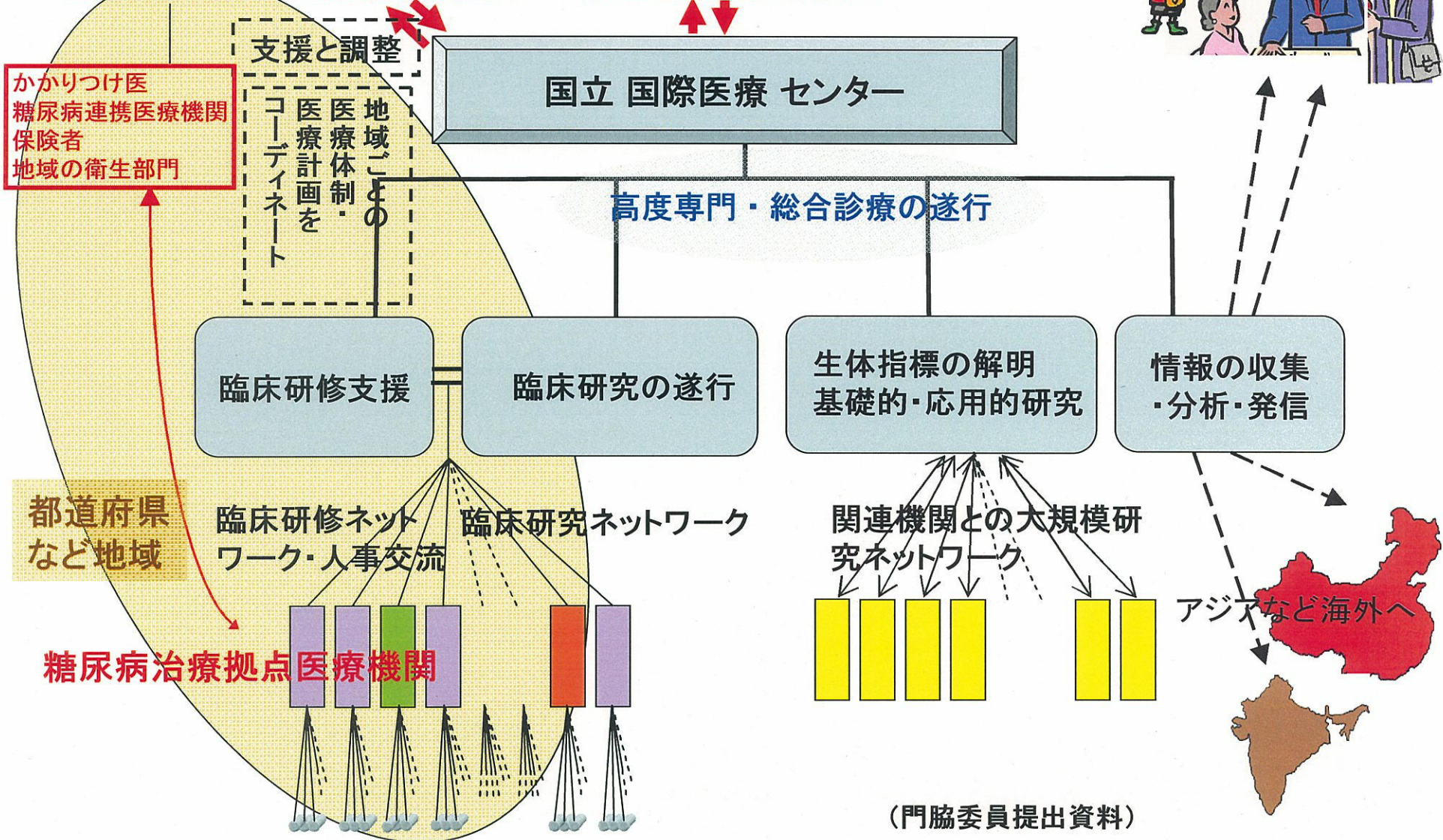
④糖尿病・メタボリックシンドローム臨床研修センターとして役割

高度専門・総合診療の遂行
医師・医療スタッフの研修とそのネットワークによる医療レベルの均てん化
診断・治療技術の普及
総合医・専門医・指導医の育成

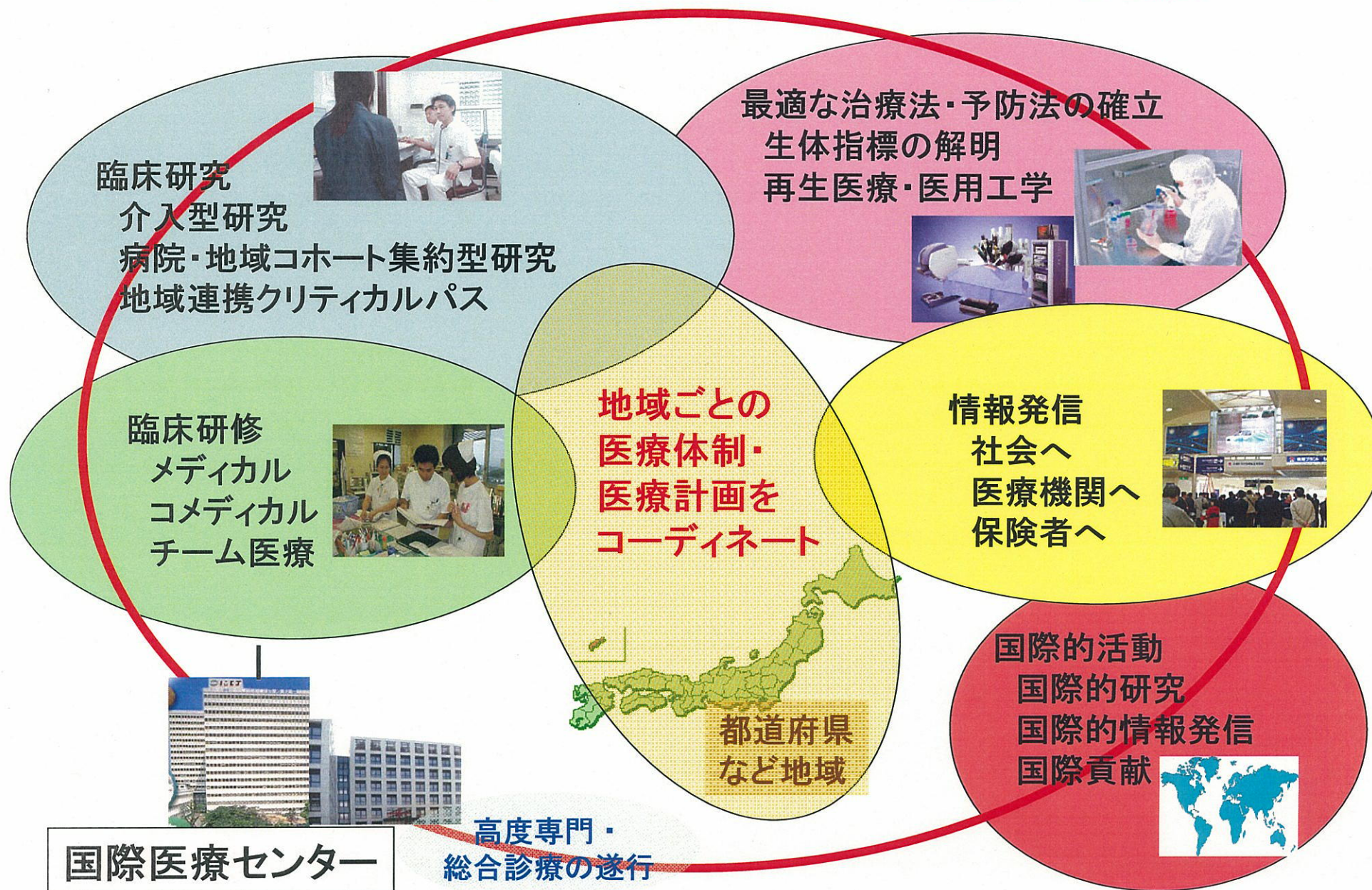
わが国の糖尿病・メタボリック シンドローム対策において National Centerが担うべき役割



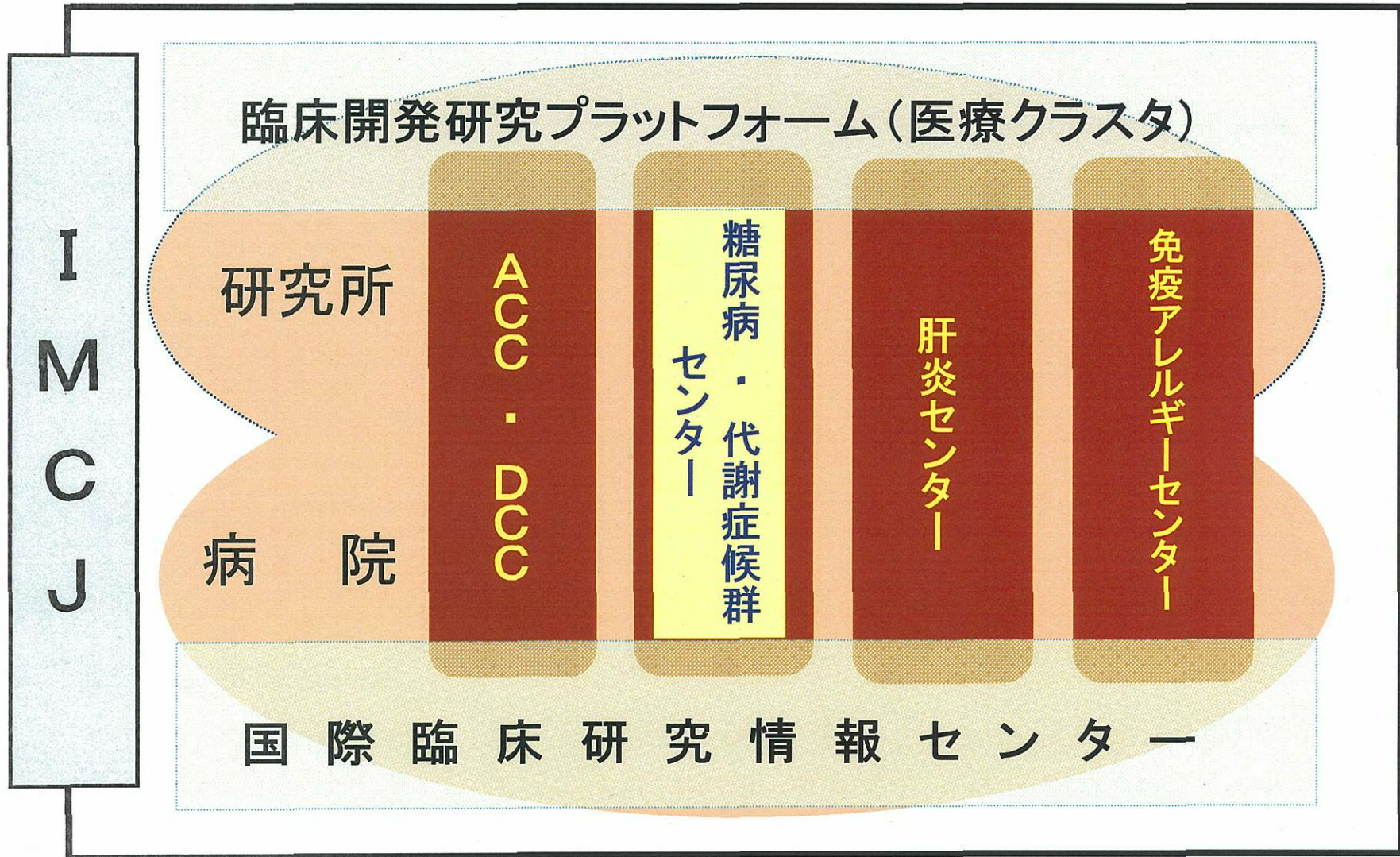
都道府県糖尿病対策連携協議会 ≡ 糖尿病対策推進会議



わが国の糖尿病・メタボリックシンドローム対策 においてNational Centerが担うべき役割



IMCJにおける臨床開発研究と情報発信



(IMCJ原図)